

2023年度 第二外国語履修案内

履修の手引き……P. 2

ドイツ語……P. 3～P. 5

フランス語……P. 6～P. 8

中国語……P. 9～P. 10

中央大学 理工学部



第二外国語履修の手引き

科目名について

外国語教育科目 2 群（第二外国語）の科目名は以下のようになります。

	1 年次				2 年次			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	AI	AII	BI	BII	AIII	AIV	BIII	BIV
ドイツ語	初級講読・ 会話		初級文法		中級講読			
フランス語								
中国語								

それぞれの科目について

・1 年次（必修科目／選択必修科目／選択科目※）

※学科によって違うので、必ず履修要項をしっかりと確認してください。

1年次は、学科ごとに指定されたクラスで学びます。「AI」と「AII」、および「BI」と「BII」は、それぞれ独立した科目ですが、内容的には連続しているため、前期後期1年間通して履修してください。

「AI」、「AII」の授業では、初級講読・会話を行います。「BI」・「BII」で学んだ文法の知識も使いながら、リーディング、スピーキングなど、第二外国語の応用的な力を高めていきます。

「BI、BII」の授業では、文法を初歩から学びます。

・2 年次（選択科目）※応用化学科は自由科目

2年次は、「AIII」、「AIV」、「BIII」、「BIV」のクラスが開講されます。（※「BIII」、「BIV」は開講されない学科もあります）いずれも中級講読の授業です。1年次に学んだ知識を発展させ、中級レベルの力を身に付けていきましょう。履修するためには、「AI」、「AII」、「BI」、「BII」の授業を履修していなければなりません。

留学について

この他、全学共通のドイツ語圏・フランス語圏への夏季短期留学プログラム（4単位）も実施されています。ドイツ語圏については後楽園キャンパスでも準備講座を受講することができます。

また、ドイツ語圏・フランス語圏・中国語圏への交換留学も可能です。検定試験なども活用して勉強を進め、ぜひ挑戦してみましょう。

ドイツ語

さあ、ドイツ語をやってみよう！

大学に入って学び始める科目の多くは、既に何らかの形で高校までに学んでいるものです。しかし、大部分の学生にとって初めて接する科目があります。それは何といても英語以外の外国語です。理工学部には第2外国語としてドイツ語・フランス語・中国語が開講されています。これまでに学んだことのない科目に挑戦することは楽しいことであり、いやがうえにも知的好奇心が喚起されるものです。大学生になった今、未知なる世界の門をたたき、ドイツ語という新たな言葉を学んで、大いなる知を我が物とする出会いと発見の旅に出かけてみようではありませんか。



ブランデンブルク門

ドイツはおなじみの国

ドイツ語は、英語と一緒にゲルマン語に属する言語です。文法や単語に多くの共通点が見られ、英語の知識のある人には非常に学びやすい言葉です。ドイツ語を学べば英語も上達します。お互いの学習が相乗効果をもたらし、飛躍的に伸びること請け合いです。ドイツ語を学びながら、英語と比較していくと、「ああ、英語のあの文法はそういうことだったのか！」と理解が深まり、納得することも多いでしょう。

ところで、ドイツあるいはドイツ語と聞いて皆さんには何が思い浮かびますか？ サッカーや高級車ばかりではないでしょう。ザイル、ハーケン、ザック、シュラーフ、シュプール、ゲレンデなどの登山やスキー用語はドイツ語です。哲学や文学や思想の分野では、ニーチェ、マルクス、グリム兄弟やミヒャエル・エンデなどがいます。グリム童話といえば、「白雪姫」「シンデレラ」「ヘンゼルとグレーテル」「ブレーメンの音楽隊」などがありますね。文豪ゲーテの「ファウスト」には27種類もの日本語訳があってわが国ではなじみ深い作品です。音楽ではバッハやベートーヴェンなど枚挙にいとまがありません。こうしてみると皆さんはいつの間にかさまざまな分野でドイツやドイツ語がすでに身近であることに気付かれることでしょう。

ドイツ語はどこで話されているか？

ドイツ語のみが単独で公用語の国は、ドイツ連邦共和国、オーストリア共和国、リヒテンシュタイン公国の3カ国です。次に他の言語と併用ながら、スイス、ベルギー、ルクセンブルクが公用語としてドイツ語を使用しています。そのほか北イタリアの南チロル地方、フランスのアルザス地方、デンマークの南部、ポーランド、チェコ、ハンガリーなど東ヨーロッパの一带でもドイツ語が使われています。これらの地域では英語よりもドイツ語のほうが通じることも珍しくありません。ドイツ語を使用する人は、世界でおよそ1億1千万人、世界第9位、ヨーロッパ地域ではロシア語についで第2位なのです。



ノイシュヴァンシュタイン

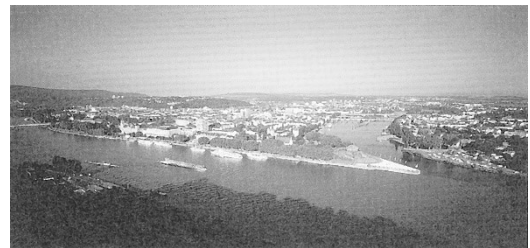
ドイツ語圏から何が学べるか？

19世紀から20世紀にかけて、自然科学の分野におけるドイツ語圏の人々の活躍は目覚ましいものがありました。理工学部で学ぶ皆さんは、ヘルムホルツ（エネルギー保存の法則）、リービヒ（有機化学）、レントゲン（X線）、メンデル（遺伝学）、そして、もちろんアインシュタイン、マックス・プランク、ハイゼンベルクなどの名前は知っているでしょうし、その他多くのドイツ語圏の研究者たちの成果をふまえて、今日の高度に発達したテクノロジーがあることは周知の通りです。

EU（欧州連合）は2021年2月時点で27カ国が加盟、その人口は4億5千万人という巨大経済圏になっています。欧州の単一通貨であるユーロ（Euro、ドイツ語ではオイロ）は、2007年以降スロヴェニア、キプロス、マルタ、スロヴァキアが導入し、2015年のリトアニアを含めると19カ国がユーロ圏になっています。またEUは「欧州会議においてどの国民も自国の言語で質問し、自国の言語で回答を得ることが出来る」という、それぞれの国の公用語が平等に扱われる多言語主義により運営されています。英語だけ出来ればよい、という考え方は欧州では通用しません。

「多様性の中における統合」を理念とするEUですが、2010年の財務危機、2011年からのシリア内戦に伴う難民の受け入れ、排外主義を掲げる右派政党の台頭、2016年の国民投票により決定されたイギリスのEU離脱、2019年末からの新型コロナウイルス感染症、そして2022年のロシアによるウクライナ侵攻と、さまざまな困難にも直面しています。これらの危機において、ドイツはEUの中でも常に主導的な位置を占め対応に当たってきました。

今、世界で何が起きているのかということを理解しようとするとき、ドイツ語圏の国々のことを知ることは、大きな手掛かりを与えてくれます。ドイツ語の学習をきっかけとして、世界の文化・政治・経済・歴史への関心を深めていきましょう。将来、皆さんがグローバルに活躍し、世界に羽ばたいていくときに、それは必ず大きな力になるはずです。



コブレンツのライン川とモーゼル川の合流点、
ドイチェス・エック

ドイツ語はむずかしい？

「こんにちは」をドイツ語ではGuten Tag（グーテン・ターク）と言います。「ありがとう」はDanke（ダンケ）、「どういたしまして」はBitte（ビッテ）です。あれ？ローマ字のようだな、と思いませんか？そうなのです。ドイツ語の発音は単語をローマ字式に読んでいけば、ほぼ正解なのです。また先にも述べたように、ドイツ語は英語と兄弟の言語ですから、指はFinger（フィンガー）、家はHaus（ハウス）というように、英語と似ているところがあるのです。

英語が苦手でも大丈夫

初習外国語（はじめて習う外国語）ですから、アルファベットのA（アー）、B（バー）、C（ツエー）から始まります。「わたしは学生です」とか「わたしはドイツ語を習う」などの初歩から、つまり1から学習しますから、これまでの経験は必要ありません。何といても、大学に入って初めから習う科目です。わくわくする気持ちを大事にして、しっかり学習すれば、かならずある程度はマスターできます。実際、かなりの履修者が1年目で独検（ドイツ語技能検定試験）4級に合格しますし、なかには3級に合格する人もいます。

楽しく、おいしく、学びましょう

毎年、暮れになると聞こえてくるのがベートーヴェンの「第9・合唱」です。ドイツ語の歌詞は16行くらいですが、少しやる気を出せば覚えられます。ドイツ・リートやドイツ・オペラの好きな人なら、ドイツ語の歌詞が分かるということがどれほど愉快的なことか、日本語訳ではどんなに味わいが薄れるか、お分かりになるでしょう。

忘れてならないのは、ドイツ・ワインやドイツ・ビールです。ワインの産地や等級、甘口・辛口の別、また日本とは比較にならないほど多種多様なビール（まあ、飲むのは20歳を過ぎてからですが）、さらに各地にあるチーズ、ハム、ソーセージ、パンやお菓子など、「食の文化」に関心を寄せてみるのもドイツ語を学ぶ楽しみとなるでしょう。

また最近では都内各地でも、ドイツ風のオクトーバーフェスト（ビール祭り）やヴァイナハツマルクト（クリスマスマーケット）が開催されることも増えてきました。ドイツの文化を身近に感じることもできる楽しい機会です。ぜひ足を運んでみましょう。

短期留学・交換留学のすすめ！

本学では、毎年8月にテュービンゲン大学でドイツ語研修を受けると4単位取得できる、という短期留学プログラムがあります。文系学部の学友とともにドイツに行き、諸外国の学生たちと机を並べて、ドイツ語を学ぶことができます。もちろん1年次でドイツ語を履修していることが条件です。

さらに半期ないし1年の交換留学制度もあります。独検3級合格、2級受験済みが出願の条件です。（詳しくは国際センターへ。）ドイツ語圏の大学は理工系の研究のレベルも高く、また比較的リーズナブルに留学することができます。ぜひ留学にも挑戦してみましょう。



テュービンゲンの家並み

フランス語

新たな言葉は新たな世界への扉

大学では、これまでとは違った学びがあり、また、これまでとは違った人と出会い、出会い方も、出会いの範囲も変わってきます。もちろんそれぞれの専攻での学びや出会いがあるわけですが、本学では第二外国語としてフランス語・ドイツ語・中国語を学ぶ機会もあり、この新たな言葉の向こう側には新たな出会いの可能性が無限に広がっています。たとえばフランス語を学び、フランスやフランス語圏に旅行したり留学したりすれば、必ず現地で新たな出会いがあります。また、東京は巨大な国際都市ですので、フランス語話者が多く住んでいたり、やって来たりします。フランス語を少しでも話すことができれば、そうした人たちと出会うチャンスはぐんと広がります。その出会いは、深く、長い付き合いへと発展するかもしれません。もしかしたら一生続く付き合いになるかもしれません。長い付き合いも、あとから振り返って見ると、Bonjour！やMerci！など、ほんの短い言葉を交わしたことがきっかけだった、というようなことがあります。逆に言えば、そんなほんの些細なきっかけこそが、人生にとってはとても大事なのです。

でも、外国語を学ぶことの本当の意義は、出会いやビジネスチャンスにあるわけではありません。外国語を習得することによって、自分の母語や文化のフィルターを通してしか見ていなかった世界を、別の、複数の視点から見るができるようになります。そうすると、同じ物事を見ていても見え方が違ってきますし、母語を通じた認識の枠組みが唯一の認識の枠組みではないことにも気づきます。特に若いうちは、「第二」外国語と言わず、「第三」でも「第四」でも、ほんのちょっと触れておくと、世界の見方がだいぶ変わってきます。フランス語は時制がかなり複雑で、そのぶん動詞の活用を覚えるのが大変なのですが、この苦勞の先に、英語とも、ドイツ語とも、もちろん日本語とも異なる時間認識の仕方を知ることができると思えば、フランス語の学習はきっと楽しく、わくわくしたものになるでしょう。



パリの町とセーヌ川



ルーブル美術館

フランスの魅力

フランスは世界屈指の文化大国です。首都パリにはルーブル美術館、オルセー美術館、ポンピドゥーセンターをはじめとして美術館がたくさんあり、数日の滞在ではとても回りきれません。凱旋門やエッフェル塔など歴史的建造物も数多くあります。また、パリだけでなく、フランスは地方の魅力も満載です。特に食文化については、各地方に特有の料理や特産物があります。ボルドーやブルゴーニュはワインの産地ですし、日本語で言う「シャンパン」はシャンパーニュ地方の特産です。「ボジョレー」や「カマンベール」と言えば何のことかおわかりだと思いますが、これも地名です。他にも、食材・料理など食文化に関するたくさんのフランス語が日本語のなかに入ってきています。たとえば、クレープ、クロワッサン、グラタン、ムニエル、オムレツ、ポターージュ、エクレア、タルト、パフェ、ミルフィーユ、カフェ・オーレ、ビュッフェ、シェフ、グルメ、パティシエ、ソムリエなどはおなじみの存在ではないでしょうか。「メニュー」や「レストラ

ン」にいたっては、それがもともとフランス語だったことを意識すらしないくらい、日本語として定着していると言ってよいでしょう。フランスが食文化に優れていることは、フランスが農業国であることの証左でもあります。フランスの食料自給率は120%台です。40%に満たない日本とはだいぶ違いますね。

フランスは観光立国でもあります。観光客数の世界ランキングではつねに第1位です。フランスには49のユネスコ世界遺産があり、これが世界の観光客をひきつける要因になっています。みなさんのなかにも、モン・サン・ミシェル、シャルトル大聖堂、ヴェルサイユ宮殿などを知っていて、フランスに旅行したらぜひ訪れてみたいと思っている人がいるのではないのでしょうか。また、スペインとの国境にはピレネー山脈、スイスとイタリアとの国境にはアルプス山脈があり、そこからいくつもの河川が流れ出て、内陸部に広がる平野を潤し、北西は大西洋、南は地中海に注ぎます。そうした多様な自然の地形が、フランスのそれぞれの地方に特有の風景を与えています。そこを自転車走破するツール・ド・フランスは、サッカーとならんでフランスでとても人気のある競技です。



ヴェルサイユ宮殿



モン・サン・ミシェル

フランス語圏

フランス語を話す国はフランスだけではありません。世界のなかでフランス語を公用語としている国は約30ヶ国あります。ヨーロッパ地域では、フランスのほかにも、ベルギー、スイス、モナコ、ルクセンブルクなど、アフリカ地域ではカメルーン、ギニア、コートジボワール、セネガル、マダガスカル、マリ、ルワンダなど、アメリカ地域ではカナダ（ケベック州）、ハイチなど、アジア・オセアニア地域ではバヌアツなどがフランス語を公用語としています。またフランスは海外県や自治領があり、マルティニーク、ギアナ、ニューカレドニア、フランス領ポリネシアなどではもちろんフランス語が話されています。

統計によってかなりばらつきはありますが、フランス語を母語とする人は約7000万人で、これは世界で第11位です。日本語の母語話者数は約1億2000万人で第9位です。ところが公用語話者数となると、フランス語は約2億2000万人で世界第6位、日本語は同じく1億2000万人で第11位です。さらに、明確な数字として表すのは難しいですが、フランス語を外国語として学んで話せる人が世界中に相当数います（これからみなさんもその1人となるかもしれません）。日本語も世界のなかではけっしてマイナー言語ではない、むしろメジャー言語のほうですが、トータルの話者数で言うとやはりフランス語のほうが上です。また、フランス語は国連の6つの公用語の1つです、英語とならんで国連事務局と国際司法裁判所の常用語にもなっています。

日本とフランス

日本では、20世紀後半に青年時代を送った何世代かは、映画、音楽（いわゆるシャンソン）、思想などフランスの文化を受容し、大きな影響を受けました。でも今の若い世代は、おそらくフランスの文化にあまりなじみがなく、直接影響を受けた覚えのない人のほうが多いはず。19世紀後半の印象派の絵画（モネ、ルノワール、セザンヌ）や音楽（ドビュッシー、ラヴェル）が好きという人は一定数いるでしょうか。現代では、むしろフランスの若者のほうが日本の文化をよく受容していると言えるかもしれません。日本のアニメ、マンガ、テレビゲームで主要なものはほぼすべてフランス語に翻訳されていて、絶大な人気を誇っています。今やフランス人は、日本人と同じように、子どものころからジブリ映画や日本のアニメ番組を見て育ちます。本屋さんに行くと、「MANGA」のコーナーがかなり広いスペースを占めています。また、毎年JAPAN EXPOというイベントが開催されていて、期間中25万人もの来場

者があります。今ではパリだけでなく、マルセイユでも行われるようになりました。会場にはコスプレをしたフランス人が大勢詰めかけます。子どものころに見た日本のアニメの影響で日本語を始めたという人もいます。日本の理系の学生さんも、将来技術的な面でそうした日本の文化産業の輸出に関わるようなことがあるかもしれませんね。

フランス語「を」、ではなく、フランス語「で」

語学は文系の学生がやるもの、という根強い先入観があることは否めません。ですが、結局のところ、言葉は手段にすぎません。つまり、フランス語「を」やるのではなく、フランス語「で」何をするのかが重要なのです。むしろ理系の人こそ、ぜひ語学をやってもらいたいです。理系の知識・技能を携えてフランス語圏へ行く、なんていうことがあれば、自分の希少価値・存在意義はいやがうえにも高まります。たとえ日本のなかでは平凡な成績、平凡な能力しかなかったとしても、自分が知っているかぎりのこと、できるかぎりのことを、フランス語話者にフランス語で伝えることができれば、それだけでとても貴重な存在になります（英語で伝えることができる人はまああいます）。世界のなかにはフランス語が通じる国・地域がたくさんあります。そこにはあなたのことを必要としている人がいて、あなたが来るのを心待ちにしています。また、日本の科学技術や伝統文化やサブカルチャーを目当てに日本へやってきて、ビジネスや共通の趣味を通じてあなたと仲よくなりたいフランス語話者がたくさんいます。外国語という世界への扉を開くかどうかはあなた次第です。そんなに身構えなくても扉は簡単に開きますし、ちょっと開くだけでもきっと新しい世界が見えてきて、新しい空気が運ばれてくるでしょう。



アフターコロナに、世界はまた動き出す

新型コロナウイルスはようやく終息に向かいつつあります。少しずつ日常が戻ってきて、徐々にですが、旅行や留学もできるようになってきました。世界はまた動き出そうとしています。これからの世界において、国際交流を進めるために、しっかり準備しておく必要があります。言葉は準備品のうちで最強のツールです。アフターコロナのこの時代に、新たな外国語を学びましょう！

中国語

『後楽』の地で中国語を学ぶ

後楽と理想

新しく入学されたみなさん、あなたは何を目印にして最初に理工学部の所在地を見つけましたか。後楽園ですか。後楽園の名は東京周辺に住んでいる人たちはみな知っています。でもこの「後楽園」の由来とそれに関する故事を知っている人はあまり多くはないのではないでしょうか。後楽園と言えば先ず挙げなくてはならない人は朱舜水です。彼は中国の浙江省余姚に生まれ、名を之瑜といい、舜水というのはその号で、彼の郷里を流れる川の名から取ったものです。明の復興のため来日し、好学な徳川光圀の知るところとなり、その後、徳川光圀に請われて江戸に行き、儒学を講じ、学校としてのいまの湯島聖堂を創りました。光圀様と朱舜水との間結ばれた友情は、日本と中国両国の歴史にすばらしい一ページに残りました。

次に挙げなければならないのは中国北宋の大政治家、大詩人である範仲淹です。範仲淹の生涯に渡る政治活動および彼の詩作を全体的に見てみると一つの核心的思想が体现されているのを見て取れます。それはすなわち「天下を己の任となす」ということです。「先に天下の憂を憂い、後に天下の楽を楽しむ」範仲淹の名句と彼の崇高な思想は世の読書人から敬慕されています。

朱舜水もまさに同じような理想と文武両道を兼ね備えた儒学者です。彼は日本で23年間暮らし、日本のために水戸学を創設し、安積覚、今井弘濟など多くの高弟を育てました。徳川光圀が朱舜水にこの庭園の名前を付けるように依頼したとき、70余歳の朱舜水は万感胸に迫るものがあり、「後楽園」と命名したのです。「世の中の憂いは人よりも先に憂い、世の中の楽しいことは人よりも後に楽しむ」。これは「後楽」に秘められた中国の文人たちの理想とする考え方なのです。



言語と橋

たがいに離れた二つの地域を繋ぐことのできるのが橋です。橋は互に通じていない二つの環境に暮らす人々の考え方やさまざまな情報を交換する役割を果すのです。それゆえ橋は素晴らしさと幸福を繋ぐきずなであるとずっと見なされてきました。

写真の石橋は朱舜水が後楽園と命名する前にこの庭園のために設計した石橋です。これは後に工匠たちがまねすることができないと言った円月橋と呼ばれる石橋です。園、水なければ霊ならず、水、橋なければ通ぜず。

朱舜水が設計した円月橋はこの庭園のために他にはない独特の風景を加えました。また彼の一生も日中両国の間に思想、文化の橋を架けるためのものでした。

日中の文化交流が凝縮しているこの地の歴史を知り、聖人の学問の偉大さを探り、先賢の不撓不屈の歩みに従い、この地で中国語を学ぶことは、きっとあなたに他とは違う収穫をもたらしてくれることでしょう。



中国語の特徴

中国語について漠然と以下のような印象を持っている人も多いでしょう。これらはいずれも、中国語の特徴といえるものです。

・音の高低が印象的である：日本語にも“ハシ（橋）”と“ハシ（箸）”のように音の高低による意味の区別はありますが、中国語の音の高低は声調（tone）と呼ばれ、専門的には日本語の音の高低とは異なる現象であるとされます。私たちが学ぶ標準の中国語には音の高低のパターンつまり声調が4通りありますが、方言ではさらに多くのパターンを持つものがあります。

・漢字のみで表記される：現在では“D N A”のようなアルファベット表記の語もありますが、原則的に漢字のみで表記されるということは中国語の大きな特徴です。日本語にはカタカナや外来語と呼ばれるものがありますが、中国語では外国の地名や音訳の外来語などにも漢字を用います。例えば、近年、日本では“カッコいい”という意味で英語の“cool”からきた“クール”という言葉が耳にすることがありますが、中国語でも同様に“カッコいい”という意味で“cool”の音訳語“酷”が使われています。なお、中国では、特定の方言のみで使われる、方言字とでもいうべき漢字もあります。地域限定の字があるという事実は、日本のひらがな、カタカナの常識からみると実に新鮮です。

中国語を学ぶにあたって

中国語を学ぶにあたって心がけておくべきことを挙げておいたら、まず、中国語は外国語であるという意識を常に持つておく、ということです。先に述べたように、中国語は漢字で表記される言語ですから、手にしたばかりのテキストをざっと眺めても、何となく意味が分かりそうな気がすることもあるかもしれませんが、また、日本語の漢字の知識は中国語の潜在的な知識であるということもあながち的外れではないでしょう。しかし、当然ながら中国語は外国語です。中国語を学ぶにあたっては、むしろ日本語の漢字の知識に頼らずこまめに辞書を引き、中国語の発音に耳と口を慣らす努力を継続することが上達のカギとなります。

中国語を学ぶことの意義

このごろは百貨店や家電量販店などでも中国語が聞こえるようになってきました。2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博の盛り上がりは、記憶にあたらしいところです。そして2012年には日中国交回復40年を迎えました。中国は今後私たちにとってさらに身近な隣国となると思われます。その意味で、中国語を学ぶことは、貴重な財産を自分のものにするということといえます。中国語の学習を続ければ、思った以上の収穫があることに気づく日がくるでしょう。中国語を選択しようとする皆さんは、それを将来の楽しみに学習していきましょう。